

## 設立総会自己紹介の記録から

(録音不調のため一部脱落しています。

悪しからずおゆるしてください。)

宮城県 横田 義雄

仙台の横田義雄と申します。ガンを保護する会の会員でございますが、もちろん今日は日本白鳥の会の会員にさせていただきたいと思ひまして参上いたしました。私は宮城県の北部、伊豆沼のところでガンと白鳥の観察とそれから仙台市の近くの大沼というところにガンが参っておりますので、その2ヶ所をホームグラウンドとして大いに勉強いたしております。どうかよろしく願ひします。

秋田県 今野 憲三郎

秋田県から参りました今野と申します。まだ白鳥の餌づけには成功しておりませんので、今回は出席の資格はないのかと思ひましたが、何か皆様からヒントをいただきましたら、たいへん結構だと思ひまして、やって参りました。よろしく願ひいたします。

新潟県 中西 朗

桃山小学校に勤めております中西朗でございます。私は別に白鳥の生態については殆んど何もわかっておらないのですが、ただ気温との関係をここ4.5年研究して来たわけです。

吉川さんはじめいろいろの人たちのご協力によりまして毎年日本気象学会で研究発表しているわけですが、特に今年は非常に瓢湖に飛んで来る白鳥の最大羽数と2月の最低気温との相関係数が0.7というのが出たわけですが、瓢湖だけに飛んで来る数だけでは、はっきり言えないと言われておりまして、是非こういう会に出て、みなさん

方から全国各地に飛んで来る白鳥の数と最低気温と、どういう関係があるかということ、これからも研究したいと思っております。よろしくご協力お願いしたいと思ひます。資料も持って来てありますが大へん数的に統計学的に今年やってみたわけですが、今日は

何かの話の時に教えていただければ非常にありがたいと思っております。よろしく願ひします。

山形県 阿部 敏雄

(前略)現在会員は4,500人位おります。場所としては最上川の河口で

餌づけをやっており、現在42年に100羽の餌づけを成功させて、今年は最高900羽来ております。

年々増えると思ひますし、瓢湖の吉川さんの指導をあおぎながら、現在やっております。

青森県 三上 士郎

青森の大湊で白鳥の保護をやっております三上士郎です。この発起人の名前の中に入っておりますけれど

会合を自ら考えたこともなく松井先生の余りに烈しい情熱にうたれて、参加させていただいたわけでありまして。

詳しいデータなども昭和29年からのがございますけれど、それは後にまわして、今後共よろしく願ひいたします。

茨城県 後藤 静江

水戸より12km北の方に古徳沼という沼がございます、ほんとに小さい沼でございますが、41年2羽参りまして、それから年々増えまして、昨年は24羽に増えました。

45年の年餌づけに成功いたしました。昨年松井先生がおいで下さいまして、いろいろお話を伺いまして、皆さんも一生懸命努力していただけることを知りまして、うれしく思っております。

青森県 畠山 正光

昭和19年から三上先生のご指導を得まして白鳥の観察をしています。

今後共よろしく願います。

福島県 八木 博

福島の八木博と申します。阿武隈川の白鳥が今から4年前に飛来しまして、26羽渡来しまして、こちらにいる上竹さんと一緒に青米などをまきながら、餌づけしましたところ餌づけ成功しまして始めの年は26羽、その次が37羽一昨年13羽ということで、今年40羽と白鳥がきました。私は小鳥の方が専門ですが、おなじ鳥ということで、みなさんと一緒に餌づけをやっております。八木と申します。

新潟県 吉川 繁男

瓢湖の吉川でございます。明治以前から瓢湖には白鳥が渡来しておりましたのですが、たまたま定着するようになりましたのは、昭和24年から、おやじと一緒に保護の仕事をして参りました。おやじは34年になくなりまして、その後私が保

護にあたることになりました。各地のみな様からも、いろいろとご協力をいただいております。一昨年本田さんと一しょに国際白鳥会議に参加させていただいて、いろいろむこうで勉強させていただいて参りました。よろしく願います。

岩手県 高橋 三太郎

岩手県の盛岡市の高橋三太郎と申します。

盛岡市の場合は全国でも珍しい場所に白鳥が来るのでございます。

青森県 菊地 正治

青森県の藤崎町の菊地と申します。

平川というところに渡来している白鳥に餌けしている菊地でございます。何しろ町をあげて渡来する白鳥を保護するところでございます。今後共よろしく願います。

福島県 大森 常三郎

福島県猪苗代に住んでおります大森でございます。職業は獣医でございます。始終遊んでばかりおるものですから環境庁の自然公園指導員、福島県の国立公園管理員など言いつけられて、何が本業だかわからなくなった状態です。白鳥に関する観察は昭和23年から続いておりまして、当時7羽であったのが、今シーズンに漸く320羽まで増加させることに成功いたしました。只今席を立っておりますが、古川氏と協力して保護に努力しております。もう一つ付け加えますが、中西先生は気温との渡来の関係を御調査のようでございますが私は季節風と白鳥の渡来ということに興味を持ちまして一部の方にいたづら書きを差上げたよ

うなわけでございますけれど、これからも風向きと渡来ということについての何分情報を賜りまして私に御協力を願いたいと、お願いする次第でございます。

島根県 岩田 正 俊

岩田正俊でございます。私は約10年程前に大学を退職しまして中海のほとりの私の家に帰りました。ところが2、3年たちますと、まるで白鳥が私を歓迎するが如くに41年から中海に白鳥が飛んで参りました。自然にこれを観察します。私本来の職業は動物学でありますので、私の家から白鳥を、またいろいろな水禽を観察しておりますのでございます。実は今日私はここに松葉杖をついて来ておりますのでございますが、白鳥を観察するための塔を造りまして、そこから望遠鏡で観察する。その建築の工事中に転落しまして、約1年前に、今日はびっこをひきながら松葉杖をついて来ているような次第でございますけれども、これも白鳥のため怪我をしたので、マアマアこれも後悔もしないし、これも自然の白鳥と仲良しになったひとつの因縁かと思っている次第です。

中海の白鳥はご存知の通り、コハクチョウでありまして、他の所と一寸ちがうような状態で、また地理的にも北の方とだいぶ離れ特殊な所でありまして、これも生態学的にも観察したいと思っております。先程のお話しの門脇さんという熱心な方がおりまして餌づけに成功しまして我々の観察に便宜を与えていただいております。所が先程河北潟の干拓によってオオハクチョウが危険な状態になっているというパンフレットをいただきましたが、中海も今干拓をしております。そして多くの白鳥が夕方には休養する、夜休む所ですが、これをほんとうに干拓してしまうわけでありまして。今までは水があり一つの潟になっておりました。

そういう危険は状態でありました中海の白鳥というものは単に観光という意味で保護するのではなくして、私はこれは悪くなれば白鳥のおる場所がなくなるのじゃないかと。危険な状態におかれておるのであります。これを防ぐために我々はどうしても運動をして白鳥の憩いの場所をなくしてしまうという事に反対しまして今運動をしております。これは中海と宍道湖の自然を守る会というのがあります。これは中海と宍道湖の自然を守る会というのがあります。自然保護の点からして干拓されるならば白鳥の憩いの場がなくなってしまう。あるいはこの白鳥が何処へ飛んで行くのだろうかという憂いを持っております。こうした点で、今後白鳥の保護にむかって活躍しなければならぬと思います。今日みな様からいろいろのご意見をおききしまして、これをもとにしまして白鳥の保護につとめていきたいと思っております。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

福島県 古 川 美忠雄

猪苗代湖の白鳥を守る会と、また県の鳥獣保護員または鳥獣保護区の管理員をやっている古川でございます。よろしく願いいたします。

石川県 二 木 義 孝

石川県の二木と申します。河北潟の白鳥を見守っておりますが、白鳥を見るよりもずっと密猟をする人たちとの戦いで、今日まで明け暮れて来たような次第でございます。今年の 問題で大へん思いもかけない結果になって、相当いや気がさして来たのですが、中村さんや矢田さんという新しい方が非常に熱心です。思い直して再びやることにしました。どうぞよろしく願いいたします。

宮城県 相 沢 幸四郎

宮城県境に近い所の伊豆沼、内沼、あるいは長沼という3つの沼がある傍に住まって来たところの相沢という者です。私の方には、昔から白鳥、ガン、カモでも沢山参っておったのですけれども、野鳥が沢山おるもので、仙台はもちろん東京方面からまで狩猟の方が沢山来まして一時少なくなつて困つたものだと思つておつたわけです。ところが自然保護、野鳥保護そういうような気運がたかまりまして、私どもも何とか地元において保護に当らなければならないと同志で話しあつておつたわけです。

けれども松井先生のお話のように非常に反対が強く、なかなか盛り上げかねておつたので、今日は参りませんが県の野鳥の会長の小原さん(きず川)の田中先生、東北大学長の伊藤先生、県の方々、そういう方が保護の指定をしたいのですけれども地元の方が反対して出来ないというような状況、まあ時を待つよりほかないのでないかというような状況でございます。ほんとうにみなさんのこうしたご理解の許にだんだん盛り上げて、私の方もそうしたような方向にむけたいものだと、こういう会を催されまして、ほんとうに力強く思つているのでございます。何分のご指導をお願い申し上げます。

石川県(矢田さん?)(中村さん?)

二木さんのお手伝いをしてありますが、能登の方に(オウチ)瀧という干拓された瀧ですけど、多いときで20羽位来ますので観察しております。よろしく申し上げます。

香川県 松 田 輝 雄

白鳥と同じようにあちこち移り住むような仕事をしておりますが、それまで九州にいましたが、宮崎に1回白鳥がまぎれこんで来たのを今から8年程前に見たことがあります。それから(高橋)には大体毎度迷いこんで来ていると思いますが、今年も1羽来ました。去年も2羽来ました。3年前も2羽来まして私は4年前から高松にいますが、その時には高松の南の方の溜池ですが親子連れ、2羽が親で、3羽が子供で来たのですが、それを見ました。毎年どこかに行く途中かあるいは何だかわかりませんが、とにかく1羽位来て、それがおもしろくて香川県の人間がバイクに乗って日曜日など沢山見に行くというような、たいへんのどかな県から参りました。白鳥にとって私こまかいつき合いもないのですが、たまには東京を見て来るのもよからうということで、それではついでに白鳥の会に出てみるかということで、たいへん真面目でないのですが、これからもよろしく申し上げます。

滋賀県 八 田 知 行

自然課の鳥獣を担当しております八田と申します。よろしく願いいたします。

今日は松井先生のお蔭でこの会にお招きにありがとうございます。琵琶湖の白鳥との関係につきましては42年に一部鳥獣保護区になりましたから、やって参りましてこれは30年振りということの表現であらわされておりますが、46年に全面禁猟いたしました結果もっと増えるという期待がございましたけれども、昨年は13羽を記録した程度でございます。みな様のご熱心な状況を勉強させていただきまして、折角の琵琶湖へもやって来るように努力いたしたいと思っております。

ますのでよろしく願いいたします。

北海道 伊 賀 岩太郎

ウトナイ湖から参りました伊賀でございます。苦小牧の白鳥の保護につきましては先程お手許に一寸した資料をさし上げましたが、苦小牧の市長を会長といたしまして昭和36年に白鳥保護の会が出来まして今日まで引きつづき保護にあたっておるわけでございます。

そのように市長始めみな努力しておりますけれども苦小牧も最近港の開発がすすんで参りましていろんな工場が入って参りました。

また本年からは第二の港が建設され、その周辺が大きな工業地帯になろうとしているわけでございますが、そうした状態の中で、ウトナイ湖がどのように変わっていくかについて、たいへんみな心配しておるわけでございます。機会がありましたら、さし上げました資料にもとづきまして説明を申し上げたいと思います。

北海道 玉 田 誠

網走市北浜中学校の玉田でございます。すぐそばにトウフツ湖がございまして小学校63人、中学校67人でございます。子供と一緒に観察を続けております。4年前に餌づけには成功したのでございますが、その後いろいろ考えることがありまして、はたして白鳥の保護ということが餌づけをすればよいんだということになるかどうか。むしろ白鳥が来るということは、そこに餌があったり、水があったり、自分たちが住むのに適しているから来るのではないか。自然にそこを探して来るのではないか。従って余りさわぎたてないで、その環境を保全すると、環境を破壊から守ることが、一番大切ではないかと、そういうよう

に現在考えておるものでございます。

いろいろとご意見もあろうかと思えます。よろしく願いいたします。

北海道 森 下 幸一郎

別海町の役場に勤めている森下と申します。すでにご承知の方もあると思いますが、私共の町に飛来する白鳥につきましては数千数万と数は多いのでございまして、白鳥に関する事件やエピソードは沢山ありますけれど、玉田先生と一緒にですが、自然環境といいますが飛来する環境を守るだけで、せいっぱいのところでございます。幸いにして餌づけにも、5年前に成功していますけれども玉田先生のご意見のようにはやはり環境を守ることによって今後とも、つとめてまいりたいというようなことで仕事をしております。この機会に是非皆様のご意見を拝聴しながら今後の保護活動につとめていきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

北海道 山 内 昇

北海道の一番北の浜頓別のクッチャロ湖をホームグラウンドとして白鳥を観察しております山内という者です。実はいろいろ白鳥を観察しているうちに首にその(すずらん)テープというものをつけた白鳥が参ったとか、4年前に玉田先生が観察されて写真撮影されて、首が曲った白鳥が今年も3月27日に私も観察し写真もとったというようなことで、各地の方たちとお会い出来れば渡り鳥のコースやいろいろと障害のある白鳥、そういうようなことを確認出来るのではないかと。私共の湖も広範囲のために260ヘクタールありまして羽数を把握することもむずかしいわけです。そして渡り鳥の一時的な渡来地でありましてピークに

は数万羽も来るのではないかと話しております。  
私確認の結果では4,300羽が、今年あたりのピークでないかと考えております。各地の移動状況を聞きまして、私共から行くもの、その次にどこへ行くのか、ここで一番ピークになるのだと。帰りもどのようなコースで戻って、浜頓別には5月10日前後、シベリア、カラフトに帰る、こういうような観察もしております。各地の移動状況ということもこの会を通じて知りたいと思って今回参ったわけです。よろしくおねがいたします。

新潟県 吉川 吉枝

新潟の吉川でございます。新潟県を三つに分けて、私は一番北の方の下越方面をみておりますが、その中の赤塚の佐潟を担当しております。どうぞよろしくおねがいたします。

島根県 門脇 益一

門脇と申します。私もみなさんのご意見のように白鳥を通じまして中海の自然を守ろうと、こういう考えのもとに餌づけをしております。小学校の子供と。(中略)

私のところのケースといたしましては、昔から宍道湖におった白鳥ですが、宍道湖の自然が破壊されまして中海に移ったようなわけです。

それで自然をいつまでも守るということのもとに餌づけをやったわけでございます。殊に生態などにつきましては先生方がおられますので、お尋ねになっていただくとしまして、私白鳥のこと余り知らないのですけれども、みなさんのお話を拝聴して、帰って一層白鳥を保護したいと思っております。

島根県 吉野 安久

島根野鳥の会の吉野でございます。宍道湖から中海にむかって白鳥が移動して参りまして、終戦直後はまだ宍道湖にいましたが、だんだんと中海に入って移動して来たわけですが、(意宇川)という川口の方にだんだん移動してまいりまして、そこから(意東)の方に本拠を移してまいりました。移りましたのは41年の暮から42年の始めにかけて、それからずっと現在まで、おるわけでございますが、その当時の意東小学校の校長をしておりました吉野でございます。皆様のご指導を得たいと思っております。

島根県 内田 映

島根の内田でございます。島根の野鳥の会をやっておりますが、今年の正月2日にたまたまはるばると北海道から松井先生が中海の白鳥を撮影にいらっしゃることを知りまして2日の午前僅かの時間でございますが、松井先生と中海の海岸でお会いしました。その時にこういう全国的な白鳥の会を作りたいと思っいろいろ皆さん方ともご連絡をとっているが、私にもひとつそういう会が出来る時には参加してくれないかというお話がありましてまことに結構なことで、その時は是非ひとつ微力ながら参加させていただきたいと申し上げてあったのですが、そういうことが縁となりまして、とうとうはるばる東京までひっぱり出されたという次第です。松井先生とはその前から文通や電話でいろいろご交際はしてはしておりましたが実は今年の正月2日初めてでございます。そして昨晚お会して2回目でございます。しかし白鳥を通じましてもう何十年も前の知己のお方のように思っております。

特に皆様とも同じような熱心に(中略)

これも何年前の方にお会した気持ちでまことに楽しんでございます。微力でございますが今後共よろしくお願いいたします。

東京都 堀内 盛一  
 少なかれお世話になりました堀内と申します。

現在環境庁鳥獣保護課におりまして皆様にまたお目にかかる機会が多くなって

皆様がほんとうに白鳥を守るということの建設的な意見をもって日本全体をよくしようということで、ご意見をどしどしいただければ幸いに存じます。よろしく。

### 昭和48年度日本白鳥の会暫定予算書(専決事項)

#### 才入の部

費 目	予 算 額	未 収 額	摘 要
会 費	70,000	27,000	70人×1,000円
会 場 費	41,000	0	41人×1,000円
懇 親 会 費	76,000	0	38人×2,000円
寄 附 金	3,000	0	中村氏
計	190,000	27,000	

#### 才出の部

費 目	予 算 額	支 出 済 額	摘 要
総 会 費	91,416	91,416	主婦会館払
予 約 金	3,000	3,000	会場借り上げ
会 員 名 簿	6,000	6,000	印刷代
印 鑑 代	9,500	9,500	会印作製
総 会 記 録 代	50,000		
通 信 費	20,000		
雑 費	10,084		
計	190,000	109,916	